

## 学校関係者評価委員会 議事録

開催日時 : 令和6年5月24日(金) 13:30～

開催場所 : 日本総合医療専門学校 10階

開会宣言 : 事務局 増子

委員名簿 : (1) 関連業界等関係者 4名

株式会社セリアジョブ 代表取締役 黒澤光伸様

全国柔整鍼灸協同組合 東京事務所 所長 塚口英治様

MTX ACADEMY 統括ディレクター 木村匡宏様

株式会社 GBS メディカル 代表取締役 神田大輔様

(2) 卒業生 2名

日本総合医療専門学校 広報課課長 富岡正享様

日本総合医療専門学校 柔道整復学科 小林耕平様

(3) 教育に関し知見を有する者 1名

ガリバーインターナショナル株式会社 平賀修司様

事務局 : 日本総合医療専門学校 校長 齋藤貴司

同校

事務長 増子肇

提示資料確認

一.学校法人平成医療学園「建学理念」

日本総合医療専門学校 「教育理念」「教育目標・育成人材像」

一.令和5年度「日本総合医療専門学校自己点検・評価」

一.令和5年度「柔道整復師養成施設自己点検票」

一.令和5年度「はり師、きゅう師養成施設自己点検票」

一.学校法人平成医療学園「寄附行為」

一.学校法人平成医療学園「組織規程」

一.日本総合医療専門学校「学則」令和6年4月1日施行

一.日本総合医療専門学校「沿革」

平成12年～令和6年5月まで

I. 学校長挨拶

昨年度4月より校舎を移転しました、鍼灸学科新設2年目ということで新たな学校運営を行っております。また今後につきましては、新たな学科を増やしていく方向で検討していき

ます。新たに委員になっていただきました神田様は、旧朋友の卒業生ということで、当校の歴史を振り返り、特に1期生～3期生においては、特に業界で活躍されている方が多いということもあり、当校の教育活動にご協力いただきたく学校関係者評価委員をお願いしております。

今年度は、早期の退学者がいない。落ち着いた状態でスタートできています。毎年ゴールデンウイーク明けにはいろいろ問題が発生していましたが本年はそのような問題は発生しておりません。学校運営として、かなり安定した状態にはなっておりますが、学校としては、また新たなアクションを起こしたいと思っております。そのひとつとして、就職説明会ですが、就職先との面接の機会の提供のみならず、多くの方に参加してもらうような形に変えていきます。各高等学校の教職員、オープンキャンパスに参加した学生、その保護者、在校生その保護者など柔道整復とはどのようなものか、鍼灸とはどのようなものなのか、どのような環境のなかで、どのような勉強をしているか。などを知っていただく機会として実施いたします。

本日は、各先生方に、忌憚のないご意見を受け賜わりたく宜しくお願いいたします。

## II. 専修学校の学校評価制度について（上程者：増子）

### ・専修学校の評価の定義について

「自己評価」、「学校関係者評価」、「第三者評価」と定義します。

- ①自己評価：教職員が、学校の理念・目標に照らし合わせて自らの教育活動について行う。
- ②学校関係者評価：生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う。
- ③第三者評価：学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした、当該学校から独立した第三者が、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について、当該第三者が設定する評価基準に基づき、専門的・客観的視点から行う。

### ・専修学校の評価の目的について

- ①学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善を行うこと。
- ②生徒・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの提携協力による特色ある専修学校づくりを推進する

## III. 審議事項

### 1. 日本総合医療専門学校自己点検・評価について(上程者：増子) 以下説明

#### 1.教育理念・目的・教育人材像について

「教育理念」については、平成12年4月に開校して以来、一貫しており、その後、「教育目的」「人間力形成」を定め、柔道整復師の育成を行って参りました。令和2年4月

1 日付の学校法人合併に伴い、本校は、学校法人平成医療学園の設置校となり、一昨年度より同学園「建学理念」「教育理念」「教育目標・育成人材像」定めております。理念・目的・育成人材像は、ホームページ、学校案内に適切に明文化して公開しております。育成人材像・目的は、社会のニーズに適合していると考えています。

## 2.学校運営について

運営方針・中期計画に則り、事業計画を作成し、資料「学校法人平成医療学園寄付行為」「同組織規程」のとおり、理事会、評議委員会が開催され議事録も残され適切に運営を行いました。また、通知・通達項目については、法人本部と連動して、全員に周知しています。各種規程も整備しており、その規程、規則については、平成医療学園のネット環境上で公開され、よりよい組織体制を整えていきたいと考えています。

## 3.教育活動について

新型コロナウイルス感染対策が2類から5類に移行し、感染対策の制限がなくなり本来の教育活動を行うことができたと思います。教育レベルは、国家試験合格という目標が明確であり、教育課程は、行政および平成医療学園関連校の意見を反映させながら編成しています。特に、卒業、成績評価基準、指導体制は整っており、校内手続きを遵守し確実に実施しています。

授業評価については、アンケートの代わりとして学生に対する複数回の面談を実施し問題点の洗い出し、改善を実施しています。教育組織体制は、新たに両学科に新任の学科長補佐を任用しています。

## 4.学修成果について

国家試験の合格率は、平均84%に対し、78%となり平均を下回った結果になりました。今年度は、新規受験者27名のうち、新3年生の受験者は14名、合格者は、13名で合格率は93%であったものの、留年者の受験者が13名おりそれらの合格者は、8名で合格率が62%と、全体を押し下げた形になっています。留年者の受験者については、平均は大きく下回った形になっていますが、学力については、土日の補講等により十分底上げはできたと思っております。次年度については、全員合格を目指し、補講の継続と平成グループ合同模試、校内模試、Google フォームを用いた演習問題の取り組みを行ってまいります。また、就職を希望する学生に対しては、就職説明会開催等により卒業後の就職率は、100%達成しています。卒業生については、現状同窓会が組織化されていないため同窓会組織づくりを検討しております。

## 5.学生支援について

退学者(令和5年度14名)は、昨年度に比べると低下傾向にあるものの依然高い水準のため、学生に対する意識の変化を早期に把握し対応を行うために、担任・校長による複数回の個別面談を行いその原因、傾向、指導内容等を記録に残す対応を継続的に行っています。また心理面から健康面への不調不安の問題が増えているためその相談にも対応しています。経済面での支援としては、公的奨学金および教育ローンに関する相談を個人レベルで丁寧に行っています。産学連携については、令和4年度より外部臨床実習を実施しております。また、学修成果の把握については、特色ある取組ができておらず今後の課題となっております。

#### 6.教育環境について

令和5年4月に三河島校舎から荒川校舎に移転し、電話設備、ネットワーク環境を整備しました。また、校舎内の窓ガラスの破損修理、および屋上外壁ボード修理、屋上の鳩糞清掃を行い教育環境を整えました。また、学校周囲に監視カメラを整備しました。既存の学籍管理システムの有効活用を試みたものの対応できなかったため、クラウド管理と費用対効果を考え、デジタル学生証のガプリシステムとビジョンクラウドの導入に向けて検証を開始しました。また地域周辺への学校名の認知度を高めるため、校舎1階部分の目立つ位置にサインシートを貼付して学校名と治療院周知を徹底しました。

#### 7.学生の募集と受入れについて

令和5年度39名の入学から微増の43名が入学しました。柔道整復学科(定員30名)は令和5年度募集では令和4年度は定員に達しましたが、今年度は25名の入学にとどまり、昨対比2割減となりました。鍼灸学科は令和5昨年度8名の入学から倍増し18名が入学するも、両学科とも定員を満了することはできず、充足率は全体で7割となりました。定員充足を目標に柔道整復学科は高校生を早期に充足させ、鍼灸学科は社会人も視野に入れweb広告、特待生奨学金等で充足に向けアピールしてきました。資料請求数は目標数にほぼ近い結果が出せたものの来校者数が令和4年度を下回り、個別対応を手厚く行った結果、来校からの出願率は66%と高い水準で入学に結び付けることはできても、必要来校数に届かなかったことが未達の原因となりました。

入学生確保に向けては東京23区東部・埼玉南東部・千葉北西部・茨城南部を主要エリアとし、実績校を中心に進路ガイダンスへの誘致、出張授業の案内をメインに教員と入試広報課員で訪問を行いました。高校生はアクセスが良く競合校の少ない千葉・茨城エリアからは一定数の割合で確保できていますが、都内と埼玉からの確保が課題となりました。10月以降は社会人に特化した夜間の学校説明会、平日に個別相談会を開催し、日曜の説明会開催とともに来校可能日時を増やして対応しました。

#### 8.財務について

学校の収支は赤字の見込みです。財務情報の公開については、ホームページの情報公開に掲載しています。学納金比率の高い財務体質のため、定員充足、退学率の低下が必要と考えております。

#### 9.内部質保証について

学校運営に必要な諸規程は整備されているものの教職員への周知については、今後検討する必要があると思われま。運営自体は、インターネット環境については、担当者退職に伴い、不正アクセスを防ぐためのネット環境整備が遅れているため、対応を検討しています。教育情報につきましては、ホームページに掲載し公開しています。

#### 10.社会貢献・地域貢献について

本校は、地域社会との共存を特に重点として同区内各種団体に対し、同校施設開放を実施し、本校教育にご理解を頂けるよう準備をしておりましたが、新型コロナウイルスの蔓延防止のため、施設開放にはいたりませんでした。今後は、地域および卒業生に関しての施設開放の実施（図書室、柔道場等）を検討していきます。

以下、各委員からのご意見 敬称省略

令和5年度に行政の指導調査をうけており改善指導等がないということであれば、教育環境の基盤はしっかり保たれていると思います。環境整備に関しては、経年劣化に伴う各箇所の修繕が必要となり、そのための投資が必要になると思いますが、それも一般企業では、安全配慮義務の範疇となり、投資は無駄にならないと思います。学校運営やガバナンスはまったく問題なくしっかりやられていると思います。収支の関係上、定員充足については、学校を選んでもらう理由を明確にすることが重要です。定員充足が達成できない理由として自己評価において、「特色ある取り組みを行っているか」にいい評価がつけられないことがあげられます。決してユニークであればいいというわけではなく、どこかと差別化できる、この分野にはたけている、というものをしっかり作り謳っていくことが、まずひとつ具体的取り組みになると思います。自分たちの特徴、魅力が何なのか、ということを確認する。そしてそれが、学校理念と経営理念とリンクしながら運営化できれば武器になります。あと、学校の重点教育目標を確認したいと思います。(堀口)

今年度の重点教育目標については、以下のとおりです。(増子)

- ・高い倫理観と責任ある行動ができる人材を育成する。

- ・豊かな人間性に基づき、他の者を理解し慈愛のある人間性を身につけた人材を育成する。
- ・医学的知識及び技能を習得し、それを必要に応じて実践できる人材を育成する。

企業説明会の実施方法についても、3年生に対する就職活動のみで就職を決めるだけの内向きの学校が多いなか、3年生だけではなく在校生全員、在校生保護者、先輩を巻き込んで実施していることは、コミュニティを広げたということで大変大事なことであると思います。また、鍼灸学科で定員充足している学校は、スポーツトレーナー押しでやっている学校が多いと思います。鍼灸に関しては、美容鍼灸、スポーツ鍼灸をきっかけにまず関心をもってもらえるのいいのではないのでしょうか。鍼灸は、治療が実費ということもあり、業界の中で問題となるトラブルもないと思います。また、教育実践給付金を軸にして集めている学校もあります。(黒澤)

業界をささえる学校としての責任があると思います。しっかりとした学生を送り続けることが必要と思っています。それができないと業界は、いつか衰退してします。柔整師、鍼灸師を応援していくような啓蒙活動をやろう。仕事の重要性を周知してもらうことを学校の方針としています。(齋藤)

中途退学者については、どの学校でも大きな問題になっていますが、経済的な問題とメンタル的な問題があります。経済的な面は手段があるような気がしますが、メンタル面の問題に対してはどのように対応されているか教えていただきたい。(堀口)

メンタル面 コロナの影響でコミュニケーションの少ない高校生活を送ってきた学生が多く、クラスになじめない学生が多い。そのような学生には、専門家によるオンラインでメンタルの指導をしていただいている。また、QUのテストを取り入れ、個人指導に取り入れています。(齋藤)

入学の対象者が社会人から高校生に代わってきていることを考えると、高校卒業したばかりの人では勉強時間が不足している。カリキュラムの編成と時間数を増やすことも必要だと思います。他の医療系資格である理学療法士、看護師と比べても少ないため。高い合格率を目指すのであれば時間数を増やし勉強時間を確保することが必要です。国家試験の合格率は、学校評価として外部にでていくので最終的に改善をどうしていくかという方針が、今後の学校の発展につながるのではないかと思います。(平賀)

授業日を増やすのは難しいと思いますが、1日のコマ数を増やすのはできると思います。但し、学費が安いので、経済的に厳しい家庭の学生が多いなか、アルバイトしながら通学できる状態の中で1日のコマ数を増やすのは学生の経済的負担が増えていきます。そのあたりの解消も課題です。(小林)

学生に柔道整復師が、いかに社会に貢献しているかという現場の状況を具体的に伝えていきたい。薬剤を使わずに痛みをなくす柔道整復師の施術方法を理解する過程では、解剖学、生理学等にも興味を持つと思われます。その機会を提供いただければありがたいと思います。自分の接骨院では、新しい方に同様な内容で説明会を実施していますが、モチベーションの維持と仕事に対する前向きな効果がでていていると思います。(神田)

キャリア教育の今年度の取り組み内容を教えていただきたい。(塚口)

職業教育の授業を行い、どんな柔整師鍼灸師になりたいか、何のためにこの仕事が必要なのか。という内容について学習している。10年サポート制度(卒後の教育を充実させていきたい。卒業後も学校に戻ってきてもらいたい。学校の教育資源を活用しつながりを持ち続けてもらいたい)を目指しています。また、学生の人生そのものを預かっている責任として、中途退学のない全員の卒業を目指していきます。柔道整復師、鍼灸師になるならないは別としても、人の役に立つ仕事についてもらいたいと思っています。(齋藤)

他にもご意見、情報提供を多く頂戴いただきましたが、今回の自己点検に関する内容以外につきましては、議事録から割愛させていただきました。(増子)

閉会宣言：事務局増子：

本校自己評価に基づき各委員の皆様より、其々のお立場で、ご意見ご評価を頂き本校運営に関し更に課題を見出すことができました。

尚、本会の評価を基に学校関係者による評価結果をまとめご報告申し上げます。

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

以上